

黒埼南ふれあい協議会ニュース

第19号

## ふれあいかわら版

## 黒埼南小学校が「交通安全優良校」の表彰を受ける

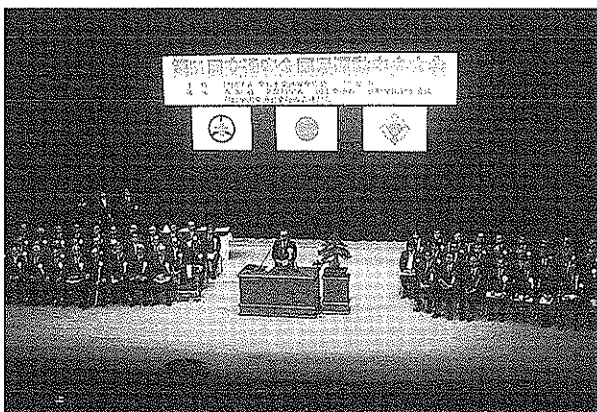
去る1月18日(火)、東京都千代田区の日比谷公会堂で開催された第51回交通安全国民運動中央大会の本会議(表彰式)で、黒埼南小学校が「交通安全優良学校」という栄誉ある表彰を受けました。

第51回交通安全国民運動中央大会は、財団法人全日本交通安全協会と警察庁が主催し、内閣府、文部科学省、国土交通省が後援する交通安全の国民運動として実施されております。

中央大会には、全国から交通安全功労等で表彰される受賞者や団体、交通安全指導者など2千人余が集まりました。黒埼南小学校からは加藤雅之校長が出席して表彰を受けました。また、武田利秋新潟西交通安全協会黒埼南支部長ら協会関係者も見学いたしました。

表彰式は、開会挨拶、国歌斉唱、交通事故犠牲者に対する追悼の黙祷、全日本交通安全協会会長挨拶、続いて、内閣総理大臣、衆議院議長、参議院議長、国家公安委員会委員長の来賓挨拶に続いて交通栄誉章表彰と交通安全優良団体等表彰が行われました。

交通安全優良団体等表彰は、交通安全優良団体、交通安全優良事業所、交通安全優良学校、優良交通安全協会、優良安全運転管理者協議会の5部門です。



交通安全国民運動中央大会の表彰式

新潟県内の団体表彰は、次のとおりです。

＜交通安全優良団体＞

新発田市地区交通安全協会

＜交通安全優良事業所＞

十日町生コン株式会社

株式会社柏崎自動車学校

東北電力株式会社社長岡営業所

＜交通安全優良学校＞

新潟市立黒埼南小学校

＜優良交通安全協会＞

上越交通安全協会

＜優良安全運転管理者協議会＞

東新潟安全運転管理者協会

なお、黒埼南小学校が評価された表彰対象の主な事業は、次のとおりです。

「新潟西交通安全協会黒埼南支部の指導のもと永年にわたり交通安全協会と全校が一丸となって交通安全活動に真剣に取り組み良好な成果を上げていること」「新一年生をはじめ生徒の登下校指導、自転車教室開催、交通安全教室を定期的に行い、交通安全をはじめとした安心安全の教育を徹底していること」「子ども交通安全自転車大会に向けて積極的な取組をなし毎年県下大会に複数チームを出場させ良好な成績を収めていること」

交通安全優良団体等表彰に引き続き、交通安全年間スローガン最優秀入選者、交通安全ファミリー作文最優秀入選者に対する内閣総理大臣賞の授与と大会宣言を行って第51回交通安全国民運動中央大会は、滞りなく閉会されました。

受賞にあたっての加藤雅之校長のコメントをご紹介します。

この度の交通安全優良学校表彰の受賞は、新潟西交通安全協会黒埼南支部の皆様をはじめとして、地域の皆様、PTAの皆様が本校児童への交通安全指導や登下校の見守りなどを通して、交通事故の防止に努めてくださったご尽力の賜と感謝しております。

おかげさまで、交通量の多い主要地方道に面する本校の立地条件においても、開校以来、子どもたちが事故に遭うことなく、安全で安心な交通環境が保たれています。

今後も歩行や自転車利用について、信号の遵守などの基本的な規則やマナーとともに、飛び出しや車両の直前直後の横断といった絶対にしてはならないことなどをしっかりと子どもたちにおぼえさせ、危険予測、危険回避の能力を高めて、日常生活での実践を継続することが必要であると考えています。

この度の受賞はこれまでの努力を讃えられただけではなく、今後さらに安全確保を継続していくよう励ましていただいたものと受け止め、引き続き皆様のご協力をいただきながら子どもたちが健やかに成長できるよう努めてまいります。ありがとうございました。



表彰状と盾



加藤雅之校長と交通安全協会黒埼南支部関係者

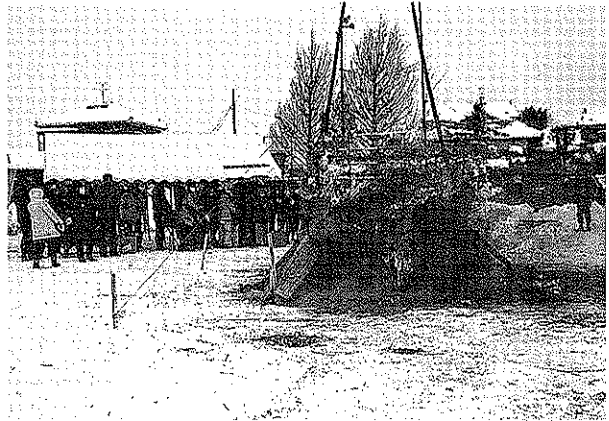
## 板井地区で「斉の神」を 50余年振りに復活!!

去る1月16日(日)、板井子供会(会長永井淳子)が、地元の消防団員の協力を得て、1年の無病息災を願う斉の神(さいのかみ)という小正月行事を50余年振りに復活しました。黒埼では立仏、鳥原、北場、金巻でも行われている伝統的な行事です。

斉の神は、竪穴式住居のように立ち上げて回りを藁(わら)で囲った“神の家”で、ミカンを食べたりお雑煮を食べたり、そして、書き初めや神棚のしめ縄やお札などを“神の家”とともに小正月に燃やすという風習が「斉の神」であります。

風雪が舞う中、風が収まるのを待って“神の家”は、小学生によって火が付けられると、パチパチと勢いよく燃え上がる様子は、まさに感動的で子ども達も、親も、見学者も暫し見とれています。

火が小さくなると今度は火の周りには、用意していた“スルメ”が何匹も舞い始めます。そして、焼けた頃合いを見て千切りにしてフウフウ言いながら美味しそうに噛みしめます。また、会場の一角では白玉団子のお汁粉や串こんにゃくが振る舞われて、子ども達の胃袋に消えて行きます。



燃え上がる“神の家”

暮れの冬至には柚子を風呂に入れて、正月の新春には七草がゆを食べて、斉の神ではスルメやお餅を食べることによって、一年中健康に過ごせるという素朴な信仰、神々に祈る自然の崇拜は、次の世代の子ども達に引き継ぎたいものです。

見学していた岡田三子さんは「50余年振りに復活できたことは喜ばしいことです。50年前は子どもも大勢いて賑やかでした。」とむかしを懐かしんでおりました。